

# リトルワールドキャンプ 16

## 活動報告書



令和元年 8月  
静岡県立大学公認クラブ  
リトルワールドキャンプ実行委員会

## I. 私たちのミッション

静岡県には、様々な国の文化を持った方々が住んでいます。しかし、日常生活でその文化に接する機会はあまり多くないように感じます。そこで、子ども達が異文化に興味を持ち、理解につなげる場を作りたいという思いから始まったのが、リトルワールドキャンプ（多文化共生キャンプ）です。私たちは、「多文化共生キャンプを企画・運営することによって静岡県内に住む子ども達が身近な異文化との関わりを意識して、それを受け入れていけるようなきっかけを提供する」というミッション（活動指針）のもと、静岡県内の小学4, 5, 6年生を対象に毎年静岡県内の様々な場所でキャンプを行っています。

## II. 活動内容

令和元年8月11日から13日に、富士市立少年自然の家・丸火青少年の家にて、2泊3日のリトルワールドキャンプ16を開催しました。参加者は子どもが43名（日本の子ども21名、富士や浜松のブラジル人学校などから外国と繋がりのある子ども22名）、大学生スタッフ44名、高校生ボランティアスタッフ6名、通訳2名、顧問1名、合計で96名でした。

今年度は昨年度と同様、日本語があまりわからない外国と繋がりのある子どもの参加が多かったことと、昨年度の事後アンケートより「日本の子と外国と繋がりのある子との関わりが少なかった」という反省があったことから、昨年度に引き続き通訳のできるボランティアスタッフを募集しました。過去のキャンプに参加経験のある高校生を中心としたボランティアスタッフは子ども達が円滑にコミュニケーションをとれるように努めてくれました。

1日目には、はじめましての会、運動会、ナイトウォーク、2日目に野外炊飯、お楽しみ会、キャンプファイヤー、3日目には劇作りとお別れの会を行いました。以下に、各プログラムの内容と子ども達の様子を紹介いたします。

### 〈1日目〉

朝、バスに乗るために集合した子ども達は、これからのキャンプに胸を弾ませている子や、慣れない環境に緊張している子と色々でしたが、バス内でのクイズや簡単な自己紹介を行ううちに笑顔が見られるようになりました。

施設に到着して入所式を行った後、最初のプログラムであるはじめましての会を行



### ▲ 玉入れ（運動会）

いました。リーダーを決めて、その人の動きを全員で真似し、オニになった人が動作の中心は誰なのかを当てる「震源地ゲーム」や、お互い無言でジェスチャーなどを用いて誕生日順に並ぶ「サイレントバースデーチェーン」という遊びを行いました。どちらのゲームも言葉が通じなくても楽しめるものであり、日本の子どもも外国と繋がりのある子どもも、楽しそ

うにコミュニケーションをとっている姿が見られ、初めて会う友達と少し打ち解けたようでした。

昼食後の運動会では、2チームに分かれて、動くかごに走ってチームカラーの玉を投げ入れる玉入れや、赤い面と白い面のある円盤をひっくり返して自分のチームの色を多く表に向ける「ひっくり返しゲーム」、ペアで手を使わずに風船を支えて走り、リレーしていく「愛の宅急便」で競い合いました。チームごとに作戦を考えたり、仲間の応援をしたり、勝った時は思い切り喜びあったりと、子ども達の活気あふれる活動となりました。



▲ クイズ (ナイトウォーク)

夕食後には1日目最後のプログラムとしてナイトウォークを行いました。暗い道をグループでクイズを解きながら歩くという日常ではあまり経験することのない活動で、子ども達はとても盛り上がり、それぞれのグループが道ですれ違う時には「行ってらっしゃい」と声を掛け合う姿も見られ、ほほえましい様子でした。

## 〈2日目〉

2日目の午前中は野外炊飯を行いました。例年、様々な国の料理に挑戦していますが、今回はアメリカの米料理であるジャンバラヤと、餃子の皮を使ったアップルパイを作りました。班内でジャンバラヤ係とアップルパイ係に分かれ、食材を切ったりアップルパイを包んだり、協力して調理をしていました。調理をするうちに班内でコミュニケーションが生まれ、子ども達の距離も縮まった様子で、自分たちで作った料理をおいしそうに食べていました。



▲ 野外炊飯

午後は体育館でお楽しみ会を行いました。うちわ作りでは、「夏」をテーマにそれぞれ思いのうちのわをデザインし、折り紙やカラフルなペンを使ってオリジナルの作品を作っていました。完成したうちわを友達同士で見せ合ったり、記念に写真撮影をしたりして有意義な時間を過ごすことができました。その後に行った「しっぽとりゲーム」では、チームごと決められた色のバンダナをしっぽに見立てて、互いに相手チームのしっぽを夢中になって取りに行く姿がとても印象的でした。

夕食の後にはキャンプファイヤーを行いました。「猛獣狩りゲーム」では、お題で出され



た動物の名前の文字数と同じ人数になるように集まり、集まったグループで好きな食べ物などを発表し合いました。このゲームでは生活班以外の子と関わることができ、友達の輪を広げていました。点火後は全員で火を囲み、マイム・マイムを踊りました。普段なかなか経験することができないキャンプファイヤーで、子ども達の表情はとても生き生きしており、言葉の違う子ども同士でも踊りを通して仲良くなっている様子でした。



▲ キャンプファイヤー

### 〈3日目〉

最終日の3日目は、起床後にそれぞれの分担ごとに念入りに清掃を行い、午前中は劇作りと大漁旗の制作、午後はお別れの会を行いました。

劇作りでは、グループごとにオリジナルの「桃太郎」を創作しました。言語の壁はあるものの、通訳の方々やバイリンガルの子を通してそれぞれが意見を出し合い、すっかり打ち解けている様子が見られました。自分の役ごとにビニール袋や色画用紙を使ってこだわりの衣装を作り、自慢げに説明する姿が可愛らしく印象的でした。グループごとに全く違うストーリーの「桃太郎」が出来上がり、桃太郎の原作を知らない子ども達も他のグループの発表を楽しそうに見ていました。

大漁旗づくりでは、手にペンキを塗って手型をとりました。100名に近い参加者の手型が模様となった迫力のある大漁旗が完成しました。



▲ 完成した大漁旗

最後に、大漁旗と共に両手を合わせたリトルポーズで撮った集合写真は、キャンプを通して生まれた団結と一人一人の笑顔が輝く素敵な写真となりました。3日間で日本の子どもと外国に繋がりのある子どもが笑顔で会話したり協力したりする姿が多く見られ、子ども達にとって異文化に関心を持つ有意義なキャンプになったのではないかと感じました。

午後のお別れの会では、1時間という短い時間の中で、班ごとに感想発表をした後、2日目に作ったうちわやスタッフのTシャツに寄せ書きをし合いました。子ども同士の間で、お互いの言葉がわからないために絵を描き合うという配慮が見られ、多文化共生というキャンプの目的に近づいたように感じられました。「ありがとう」「また来たい」という温かいメッセージに、スタッフ一同嬉しくなりました。

### Ⅲ. 事前準備

リトルワールドキャンプ 16 を企画、運営するにあたり、スタッフは広報、渉外、会計、資料作成の 4 つの係（大きい係）に分かれて団体を運営しつつ、プログラムを 4 つのチーム（小さい係）に割り振り、それぞれが担当プログラムを企画し、運営の準備を進めました。定例ミーティングでは、大きい係の活動状況を共有するとともに、各小さい係が作成したプログラムの企画書を全員で確認し、疑問点や改善点、想定される危険などを挙げ、より良い企画になるよう意見交換を重ねました。

6 月 1, 2 日には、当日の様子をイメージするため、会場である富士市立少年自然の家・丸火青少年の家で下見合宿を行いました。各プログラムを実際に行い、予測される危険箇所を確認し、プログラムをスムーズに運営できるかどうかを試しました。また、子ども達がより楽しく活動できるようにするにはどうしたらよいかを考え、意見を交換し合いました。

7 月 7 日には、当日に起こりうる緊急事態にそなえて、駿河消防署の OB の方々に静岡県立大学までお越しいただき、普通救命講習Ⅲの講習を受けました。講習には、企画スタッフとボランティアスタッフが参加し、人工呼吸や胸骨圧迫、AED の使い方を学びました。



▲ 救命講習会

さらに、緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時の対応がスムーズにできるように備えました。

7 月 28 日には、キャンプ参加者の保護者を対象にした保護者説明会を静岡市民文化会館で行いました。保護者の方々とスタッフが直接顔を合わせ、保護者の方が抱えている不安や心配な点を少しでも解消できるよう努めました。

キャンプ前日の団結式にはキャンプに参加するスタッフが集まり、キャンプに向けての最終確認を行いました。キャンプの意義や子ども達との接し方などの再確認を行い、キャンプでの各々の目標を明確にすることで、質の高いキャンプにする意識を高めました。

《お問い合わせ・ご質問》

静岡県立大学公認クラブ リトルワールドキャンプ実行委員会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1 静岡県立大学 リトルワールドキャンプ

Email little\_world\_camp@yahoo.co.jp

HP <http://littleworldcamp.jimdo.com/>